

## 「知事とのフレッシュトーク」(平成19年9月5日実施)の概要について

平成19年9月5日(水)に七戸町の青森県立七戸高等学校において、「知事とのフレッシュトーク」を実施しました。その概要をお知らせします。

「知事とのフレッシュトーク」は、知事が高校生の皆さんと県の未来について意見交換を行うものです。今年度は、七戸高等学校が最初の訪問校となります。

当日は、5名の生徒と知事とがパネルディスカッションを行いました。

### 七戸高等学校の概要

七戸高等学校は、大正15年に「七戸町立実科高等女学校」として設立。昭和23年に七戸高等学校となり、平成17年度には創立80周年を迎えました。平成19年度には県立八甲田高校が八甲田校舎となりました。

現在、七戸高等学校で464名、八甲田校舎で98名の生徒が学んでいます。

### 七戸高等学校生徒によるトラジョサンバ披露

#### 知事あいさつ

私の生まれは、今は合併しておいらせ町になりましたが百石町です。そこで町長をしました。それから、国会議員になり、今、知事の仕事をしています。青森県の未来がどういよう方向に進んでいくのか、それが私たちの県政としての悩みであり、楽しみでもあります。青森県はいろいろな課題がありますが、今日の皆さんの元気に触れて、とってもうれしくなりました。今日はフレッシュトークということで、将来の青森県を背負っていく皆さん達と本音でトークをしたいと思っています。

#### 生徒1(男子)



自分には自衛官になるという夢があります。自衛隊は大規模災害など各地の事態への対応や、国連平和維持活動参加など、様々な分野で義務を果たしています。自分も災害援助や国連平和維持活動参加などに興味があり、自分にとって自衛官はやりがいを感じられると思っています。自然災害は防ぐことは出来ませんが、災害に対する安全策や、万一の災害発生時に迅速に対応

できるまちづくりが大切だと思っています。

今は老人が多くなっているので、子どもから老人まで様々な年代が参加できる活動を増やして、災害発生時には地域で助けあい、災害発生時に住民が速やかに避難できる体制を整えてください。

3年後には新幹線が開通し、人の流れや物流が活性化されます。町の基本構想にもあるように福祉の充実、これはもっと大切なことになると思います。しかし実際は、地方の病院や診療所の医師不足が深刻な問題だと思っています。自分の母は助産師ですが、勤務している病院に産婦人科医がいなくなったので、今は看護師として働いています。全国的にも産婦人科医が少ないと母から聞きました。子どもが産めないと、これからの地域の活性化も意味のないものになると思います。このままいくと子どもを地元で産めないし、老人も十分な医療を受けられない状態になると思います。すぐに目に見える成果が出るものではありませんが、時間をかけて医師不足や地域医療について改善をしてもらいたいです。

知事はご自身のホームページ「健やかで安心して暮らせる社会を目指して」の中で、「医師の養成・待遇改善」「自治体病院の機能再編成」を訴えておられます。これらの政策がいち早く機能し、安心して暮らせる青森を実現することを願っています。

新幹線が開通することによって、青森に行く人もあれば、地元を離れ進学や就職をする人もいます。例えば、営農大学校を大学レベルにして青森県に畜産や農業に関するの研究機関などを作り、県内各地域の特産物のブランド化など、青森で生産されたものを加工して販売すれば良いと思います。そのために研究機関で人材を育成し、その人たちが就職できるような企業を作ったり、または誘致して県内に働き口を作って、畜産や農業の発展を目指すのも一つの方法かと思います。ホームページのなかのあおもり型産業の育成や攻めの農林水産業はこれに相当するのではないのでしょうか。

例えば、ここ七戸ではながいもやにんじくなどが特産物です。様々な加工品が開発されているのですが、消費者への浸透といった面では今一步のような気がします。全国ネットのテレビやインターネットでPR作戦を展開したいです。

最後にお礼を述べます。三村知事は最年少の町長として、百石町の町長となられた時から、中学生との懇談を続けていると聞きます。今回も知事が本校に訪れるということで、私は県政について少しですが勉強することになりました。このような機会を作ってくださいありがとうございます。これからもフレッシュトークを継続してください。

## 知事

とても大切なことや、今青森県が悩んでいることをたくさん話してくれました。

最初に自衛官になりたいという夢を語ってくれました。自衛官はとても厳しい仕事だと思います。我々が休んでいる夜や日曜日などに、この国の平和安全のために、また万が一の災害のあった時に出動し、一生懸命頑張ってくれています。その自衛官を目指してくれているということでとてもうれしく思いました。

お母さんの仕事はとても素晴らしいことだと思います。今、青森県では良医を育むための仕組みづくりをしています。弘前大学の1～3年生で青森県の医師になる人を確保しています。こういう人たちが弘前大学を卒業すると、徐々にお医者さんが青森県内でも増えてくる可能性が高いです。しかし、産婦人科医と小児科医と麻酔科医が足りなくなってきた

つつあります。産婦人科医も小児科医も24時間勤務で全然休めず、産婦人科医にいたっては、疲れ果てて倒れてしまう方もいます。そのため、そういう先輩達の姿を見て、若い世代がなかなか産婦人科医や小児科医になってくれないという現状があります。県とすれば、病院を集約して、拠点の病院を置いて、あとはサテライトと診療所という形にして、お医者さんの確保をし、夜勤の日数を減らすなど、お医者さんが休めるように仕組みを整えていきたいと思います。

そして特産物のブランド化の話がありました。七戸の名物といえば、天間林のにんにく、みよこ米などありますが、米やながいもやにんにくが評判がとても良いです。青森のにんにくやながいもや米をこれからどんどんPRして売れる商品をつくっていかねばならないと思います。ぜひ将来、生産者、流通に参加してくれる人が出てきてくれたらうれしいです。

次は新幹線ですが、もうすぐ新幹線がやってきますが、何を期待していますか。

## 生徒2（女子）

新幹線の駅ができることによって、都会に出て行った人たちが戻ってきやすいようになると思います。

## 知事

県としては、皆さんのために働く場をつくっていかねばならないと思っています。新幹線ができるからこそ、ものづくり産業や、農林水産業を強くしていきたいと思っています。また、ベンチャービジネスを始める人のための基金を作りました。新しい商売にチャレンジして始める人にお金を出資し、その企業が大きくなるように支援するものです。この上北郡で働く場を作るために頑張っていきたいと思っています。

## 生徒3（男子）

私はサッカー部に所属して練習に励んでいます。今年は高体連から部活動奨励賞をいただき、大変うれしく思っています。先輩方が頑張っていたいただいた賞なので、これからもより練習に励み、もっと良い結果を出せるように頑張っていきたいと思っています。

今日は三村知事に聞いていただきたい話があります。七戸町をもっとスポーツが盛んな町にしてもらいたいのです。そこで、七戸町には広大な土地があるので、その土地に芝を設置して、県立競技場を作ってアスリート達が合宿や遠征ができるように宿泊施設を作ってもらいたいのです。

もう一つ聞いていただきたい話があります。青森県民の歌「青い森のメッセージ」のCDがありますが、第二弾として、青森県民の体操「健康雪かき体操」をビリーズブートキャンプのように親しみやすく少しアレンジして、それをDVD化して配って、青森県民みんなを健康にしてほしいと思います。

## 知事

私が4年前知事になった時、3年以内に県は潰れるといわれていました。そこで再建計

画をたて、この4年間で頑張ってきました。しかし、本当のことを言うと、施設を造るのはなかなか難しいので、七戸町にある使っていない牧場を借りて練習の場所に利用し、近くの温泉に宿泊すればちょうど良いのではないかと思います。天間林にもいろいろな施設があり、グラウンドなどもとても立派です。今ある施設を最大限に使っていけば出来ると思います。これからは、施設を新しく造るという時代ではなくて、今ある施設をどうやって上手く使っていくかが大事だと思います。皆さんの家庭でも新しいものを買わないで、いろいろなものを無駄にせず家計をやりくりしていると思います。皆さんに財政再建団体になったと言われぬように、きちんとやっていきたいと思っています。

皆さんには青森県は大変に見えますと思いますが、すごいところも多いのです。間違いなく、税収が少しずつ上がってきています。企業を誘致した分がじわじわ効いてきています。それから、ジャスコやイトーヨーカドーなどの県外その他で販売されている青森の物産も大分増えています。

それから、もう一つおもしろい話がありました。「健康雪かき体操」です。「皆で冬場に体操しよう。体を動かさないと健康に悪い。」ということで、県庁の若手職員の提案で「健康雪かき体操」のCDとビデオを作って、青森市の保育所や幼稚園に行き私も一緒に子ども達と体操をしました。ビリーズブートキャンプも良いですが、「健康雪かき体操」ももう一度考えてみなければならぬと思います。後からCDだけでもお送りしますので、ウォーミングアップにでも活用してください。

サッカー選手を目指しているとのことですが、ぜひ世界を目指してほしいと思います。期待しています。頑張ってください。

#### 生徒4（女子）

私は2年生から主に食品について学習しています。具体的な科目を紹介すると、農業科学基礎、食品化学、微生物基礎などを履修してきました。とうもろこしやさつまいも、だいこんなどの種まきから収穫までの管理作業をしたり、収穫物を利用して食品に加工していくことも学んできました。また、食品そのものの成分分析や、微生物を利用した食品に基本的な特性などを身につけることができました。今年の秋には栽培しているさつまいもを活用して、地域の幼稚園児への食育活動の一環として、一緒にさつまいもの収穫作業を行う予定になっています。最近、先生方に勧められ、地産地消料理コンテストに応募しました。一次審査を通過することができ、銀座にある国際フォーラムという会場で行われた全国大会に出場し、地元産品であるにんにく、りんご、ほたてを活用したグラタンを実際に調理してきました。結果は奨励賞をいただくことができ、本当によい思い出を作ることが出来たと思います。また、学校農場では今話題のカシスを古くから栽培し、カシスジャムに加工して、七戸や旧十和田湖町の道の駅で販売しています。最近七戸町では「七戸カシスの会」が結成されました。新幹線開業に向け、栽培や新製品開発の試みが始まり、私たちもいろいろな協力をしていくことになっています。このように特産品を活用した様々な取り組みから、七戸や青森県がより活性化していけば良いと考えています。

#### 知事



今「美味しんぼ」の漫画で青森県を特集しています。また、青森県には「焼き干し」「フジツボ」「温泉もやし」「天間林の黒にんにく」などいろいろな特産品があります。その特産品を一流の料理人熊谷喜八さんが青森を見て回って、レシピ集を作ってくれました。青森は食材の宝庫です。この美味しい食材を、ただ生で売るのではなくて、どう加工して売るかということです。付加価値をつけて販売すること

で、ものすごく利益が上がります。要するに産業として強くなります。トップセールスなど「攻めの農林水産業」を実践して、付加価値を高めようと県として頑張っています。青森県には特産品があります。皆さんは働く場を作るには、企業誘致をすれば良いと考えます。しかし、ほたてやりんごに付加価値をつけて販売するような人達が出てくると産業が元気になります。もし良かったら、何かベンチャービジネスをしてみませんか。青森県ではこれから仕事を始めたい人のために基金を始めました。いろいろな勉強をしたいい人に使ってもらうための基金です。商売をしてくれたらうれしいと思います。

#### 生徒5（女子）

将来の夢は介護福祉士です。

私たちは福祉健康系列で、基礎介護、成人老人介護、社会福祉援助技術などの教科を国家試験合格のため勉強しています。そして、福祉健康系列の3年生は、4月から老人保健施設、デイサービスセンター、特別養護老人ホームなどで実習をしています。ここ七戸地区は高齢化率が25パーセントを超え、4人に1人が65歳以上となっています。そして実習を通して、施設入所高齢者のほかに、在宅生活をしている高齢者が多く、デイサービス、デイケアを数多く利用していることを知りました。そこで、在宅高齢者が住みやすい環境の整備や地域の人となんらかの関係をもちながら一緒に暮らせる方法がないか、と考えています。福祉健康系列の2年生は学校周辺の高齢者のもとを訪問し、コミュニケーションをとったり、家事の手伝いをしたりしています。そして、その関係を生かし、冬になったら雪かきが困難な高齢者のお宅に伺い、雪かきボランティアなどに結び付けていければ地域との関係をもつことになるのではないかと思います。また、地域で1人暮らしをしている高齢者のお宅に定期的に昼食を届ける給食サービスを取り入れている市町村もあると聞いています。給食サービスを取り入れることには、高齢者の楽しみのひとつとなり、更に家に届けることで高齢者の安否の確認をすることができる利点があると思います。私たちの周りの地域で、ボランティア活動を少しでも増やし、高齢者の社会参加を促すことにより、町も活気にあふれ、高齢者の暮らしやすい地域になると考えました。

私は高校を卒業したら、介護福祉士として介護の仕事に就きたいと考えています。利用者のニーズに応えられ、信頼される介護福祉士になれるようにこれからも勉強や実習を頑張っていて、必ず国家試験に合格できるように努力したいと思っています。よろしくお願ひします。

#### 知事

私は皆さんにとっても期待しています。これからの青森県を本当の意味で支えていくセーフティーネットと言うのですが、この福祉と介護という現場はものすごく重要です。若い皆さんがその場面でお年寄りや弱者の人たちを支えるという仕事を一生懸命してくれたら、青森県は絶対住み良い県になります。35歳の時に百石町の町長をしていましたが、その時は百石町に福祉の仕組みが何もありませんでした。中学生全員と語り合う会を続けていましたが、その会で中学生に言われたのが、「おじいちゃん、おばあちゃんが背中に褥そうができています。でも町のヘルパーは、福祉のほうに来てくれない。この町にいたくない。」と言われました。とても辛かったです。まだ35歳で、自分の祖父も元気だったので、そういうことを意識していませんでした。百石町をゴールドプランの調査で保健師さんたちと歩きました。高齢者の方は家の北の方の部屋に寝かされていました。これを見て、「これは良くない。青森県、百石町はどうなってるんだ」と思いました。そこで、絶対に一人ひとりの命を守れる仕組みを作りたいと思い「保健・医療・福祉包括ケアシステム」という仕組みを作りました。それを青森県で始めたのは私です。それからは包括ケアシステムについてこつこつと講演をしました。一人ひとりを家にいても確実に支える仕組みを作ろうというのが包括ケアシステムです。介護福祉を目指している人は、私にとって大切な仲間です。ぜひ皆さんの力を借りて、良い地域づくりをしていきたいと思えます。これから青森県では高齢者が増えていきます。だからこそ、高齢者を支えていく仕組みを今から作っておかないといけません。その仕組みを整えておけば、お父さんやお母さんが年をとった時に支えられますし、皆さんも支えていけます。その仕組みをつくっていくのが政治だと思っています。

## 生徒6（男子）

私には一つ夢があります。私の夢は近い将来高校を卒業し、介護職員として働くことです。私が介護職員になろうと思ったきっかけは、母の存在がありました。私は介護職員として働く母の姿を見てきました。母の仕事の大切さを少しでも知りたい、2年生のインターンシップをきっかけに、私は介護のボランティアに参加することにしました。介護のボランティアは予想以上に大変でした。私は野球部に所属しているので体力面は問題ありません。でも、介護の仕事はただ仕事をこなせばいいわけではありません。なかなかお年寄りの方々と会話のきっかけがつかめず、その気まずさから何度も辞めようと思いました。でも、「ありがとう」と言ってもらえるのがうれしくて、だんだんこうして人の役に立つ仕事がしたいと思うようになりました。今では、絶対就職を実現させたいと思っています。今、私には気になっていることがあります。私たちの学校、七戸高校八甲田校舎のことで、私たちの学校は、八甲田高校から今年七戸高校八甲田校舎になりました。生徒数も100人を割り、文化祭をはじめとする学校の行事も少し寂しい気がします。でも、小さな学校にも、小さな学校の良いところがたくさんあります。アットホームな暖かい雰囲気、一人ひとりが落ち着いてじっくり学習に取り組める環境、先生方も私たち生徒も全員がお互いに理解し合い、勉強や課外活動に励んでいます。私たちの友人の中にも、八甲田校舎がなくなったら通うのが大変だという声をたくさん聞きます。この私たちの八甲田校舎が、これからもなんとか残ってほしいと思えます。

最後に、青森県の未来について知事をお願いします。私はこの青森県が好きです。自然がたくさんあり、住み慣れたこの青森県ですと暮らしていきたいと思っています。でも、今私たちが地元上北地方に就職するには非常に難しくなっています。私たち高校生は、「今の高校生は…」とよく言われます。でも、決して働く気がないわけでも、フリーターでも良いのでもありません。やりたい仕事に就きたい。独り立ちして暮らしていただくだけの給料がほしい。様々な私たちの願いは県外に出なければ達成できないのが現状です。三村知事、私たち高校生が残って働く場所があり、安心して暮らしていける青森県にしてください。そうすれば、私たち高校生も青森県に残って、青森県のためにどんどん働きたいと思っています。若者が多く県内に残り、若者に仕事があれば、県内の経済も活性化されるはず。地元若者がたくさん残り、商店街が活気づくような青森県になってほしいと願います。よろしくをお願いします。

## 知事

その生真面目さ、とてもうれしく思いました。お母さんにありがとうと伝えてください。介護の仕事はとても大切ですが、きつい仕事です。その後姿を見て、そういった仕事に就いてみたいという気持ちを持ってくれたことをうれしく思います。

皆さんもボランティアをいろいろなところでしていると思います。「ありがとう」という言葉をもらえる仕事、あるいは人生というのは素晴らしいことだと思います。特にお年寄り達がにこっと笑ってくれる時、言葉には出せなくてもそれはありがとうという意味なのです。保健師さんたちがよく言うのは、「保健師を生涯の仕事にして良かった。一生懸命働いたら働いた分だけ、『ありがとう』という言葉がもらえた仕事はほかにはなかった。次の世代にもこの仕事の素晴らしさを伝えたい。」ということです。お母さんも、おそらくきつい仕事だと思いますが、たくさんの「ありがとう」を、いろいろなおじいちゃん、おばあちゃんからもらっていると思います。

まず、八甲田高校の校舎化の話がありました。実は、校舎化の問題は、教育委員会の考えですが、受験者数も減ってきていて、単独で維持するよりも七戸本校と八甲田校舎とがやりとりする形で、お互いに切磋琢磨するような仕組みでやっていこうということで、校舎化という仕組みを取り入れたそうです。実はこれからの高等学校のことについて、「高等学校グランドデザイン会議」で平成21年度以降、学校の配置がどうあるべきか、拠点校を守りながらも、小規模校の存続についてもどうあるべきかということを検討し、話し合っているそうです。そのグランドデザイン会議からの答申を踏まえて、生徒数の推移、地域の実情などを考慮しながら、次の教育改革の実施計画策定をしていくとのことでした。ぜひ八甲田校舎の先生方たちも、そういう状況であるということを理解していただければと思います。

次に、先程も働く場を作るため取り組んでいることを話しましたが、青森県の得意分野は農林水産業の第一次産業や観光産業です。得意分野を確実に伸ばすために、攻めの農林水産業や、あおもりツーリズムと言って、県外、国外から青森県にたくさんお客さんを連れてくるという戦略を行っています。先日は「韓国人が訪れたい世界の十ヶ所」に青森県が選ばれていてとてもうれしかったです。でも、やはり根本的には、我々青森県としての働く場をきっちりとつくるのが大事だと思います。そこで県では、「あおもり型産

業創造育成プロジェクト」を進めています。六ヶ所村には白色有機 EL という発光する技術を持った会社があります。また、野菜テラスという発光ダイオードで野菜を育てる仕組みを青森県は持っています。愛知万博の入場券も青森県で作りました。青森県内の企業には、その入場券の中に入っている世界一小さい半導体ミュッチップを作る技術があります。そういう分野を伸ばそうと今取り組んでいます。

また、環境・エネルギー産業があります。これから環境を守ることが商売になってきます。八戸を中心として、ゼロエミッションという技術を4年かけて作りました。今度はその技術を、実際に動かしながらパテントも販売していこうということをやっています。

あるいは、太陽光・風力・バイオマスなどの、新エネルギーを中国やインド、アジア、アフリカに販売していこうという戦略です。青森県はエネルギーパッケージシステムで稼ごうと県独自で行っています。もうひとつは農林水産業です。もっといい加工品をつくらうという取り組みを進めています。例えばりんごからシードルというお酒が出来ますが、そこからもう一歩進めて、サントリーと青森県でマイナス196度チューハイをつくらうとしたり、あるいはバイオマス資源というのですが、皆さんが食べた残りやりんごの切った枝などから堆肥をつくる仕組みなどです。また新幹線の駅舎に木材をたくさん使う時に、青森県が持っている集成材というものを作る技術を商売にしていこうという動きが今出てきています。いろいろな動きが出てきているからこそ、我々も皆さんが将来ここで働けるような企業を、青森県の人々が青森県の資本を使って、青森県の技術を使って商売をしていく。青森型のベンチャービジネスも始めています。青森県でやはり大切なことは働く場を作ることです。確実に残した財源少しずつを、働く場所、ものづくり産業に投資しています。福祉関連は大きな公共投資であり、働く場として大きな役割を担っています。だから、ぜひ県内の福祉関連の施設に就職してくれたらうれしいと思います。これからも働く場作りに頑張っていきますので、期待してください。また、将来の夢に向かって頑張ってください。

### 生徒7（女子）

将来の夢は保育士です。少子化が進んでいるので、保育の仕事がもっとできるようにしてほしい。また保育の仕事が出来るようにもっと場所を作ってほしい。

### 知事

大丈夫です。保育士の仕事は毎年募集が出ているくらい、青森県の中では元気な仕事です。保育園の関係で言えば、期待してください。

### 生徒8（男子）

知事の睡眠時間は何時間ですか。

### 知事

今では6時間くらいは寝ています。青森県庁では冷房がないので、夏の間は暑くてはあ

はあ言っていました。麦茶でもビールでも飲みすぎると夜中に起きてしまって、それから眠れなくなるので、寝不足で4時間くらいしか眠れなくて辛かったです。

### 生徒9（男子）

誕生日と血液型と七戸高校の校長先生の印象について教えてください。

### 知事

誕生日は昭和31年4月16日です。血液型はO型です。校長先生の印象は、最初見た時、私に似ていてびっくりしました。明るい先生だと思います。

### 生徒会長お礼の言葉

三村知事、本日はこのような貴重な時間を設けていただきありがとうございました。知事のお考えを生々の声で聞くことが出来、まさにフレッシュトークでした。今回の代表生徒5名は今まで学んだことや体験を振り返って考えることにより、地域が抱えている問題に真正面に向かい合うことが出来たと思います。また聞いている私達は今日のこの時間を通して、青森県の未来、七戸町の未来、私たちの未来について、様々な方向から考えることが出来ました。ここ七戸町はやがて新幹線七戸駅が出来、人の流れも多くなり、それに伴って町民の地域に密着した活動がより求められると思います。それには新しい発想を持つ私たち若い担い手が考え、より活気ある活動をしていかなければなりません。今日をその第一歩にしたいと思います。知事、私たちの住みよい環境、安心・安住の地青森県を目指し、本当にお忙しい毎日のことと思います。そのような中、本日は本校においていただき本当にありがとうございました。

### 知事あいさつ

今日は七戸高校の皆さん、八甲田校舎の皆さん、ありがとうございました。皆さんとフレッシュトークを行い、新しい発想、やわらかい考えを聞くことが出来ました。やはり若さは力、若さは未来であると思います。私達はセールスにこの半纏を着て行きます。そこに書かれている言葉は「青森の正直」です。今日出会った皆さんも一人ひとりが青森県人です。青森県人の良さについて聞くと、いつも「正直」と出てきます。正直であることは、必ずいろいろな困難を克服することに近づいていきます。皆さんお一人お一人が、青森の良さ、生真面目でコツコツと努力し、正直に歩いていく、そのことをぜひ大切にしていってほしいと思います。今日皆さんからいただいたご提言・ご提案を施策の中に活かしていきたいと思います。また、福祉や働く場を皆さんの未来のために整えていくことに全力を注いでいきたいと思います。良い学生生活を送って、未来に歩いていってください。今日はありがとうございました。